

<令和4年度>

しまなみ海道通行料実質無料化に  
向けた調査検討プロジェクトチーム

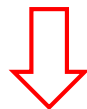
# 令和4年度活動報告



# 【活動報告】しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

## ●背景、必要性

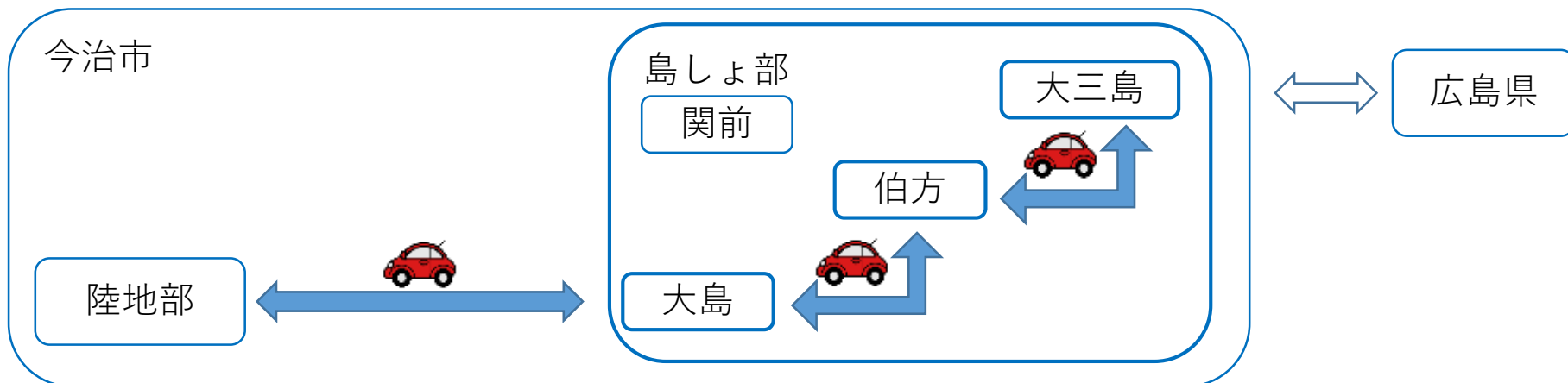
- ・島しょ部の生活環境が充足していない
- ・しまなみ海道沿線住民にとって生活する上での唯一の道路が高速道路（しまなみ海道）である
- ・おでかけ市長室やタウンミーティング等において通行料金の負担軽減を求める意見が多い
- ・同じ今治市民でありながら陸地部住民と比較して日常的な通行料負担がある



しまなみ海道沿線住民の  
通行料金負担を軽減



## ●実質無料化の検討対象（しまなみ海道）



## 【活動報告】しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

### ●実質無料化の検討に際しての考え方

#### <実質無料化検討の対象>

島しょ部で完結できない目的で利用  
島しょ部で完結させるような対策

#### <実質無料化検討の対象外>

公共交通（バス）  
公共交通（航路）  
通勤、業務、観光での利用

### ●実施している支援策（通行料金の負担軽減に繋がる助成など）※R4年度時点

#### ・しまなみの子どもを育む交通費支援事業

##### 【保健医療】

妊産婦・乳幼児の対象となる受診、産後ケア・母子保健事業の利用、不妊症・不育症の受診  
小学生以下の救急受診（休日・夜間）に対する助成

##### 【子ども世帯】

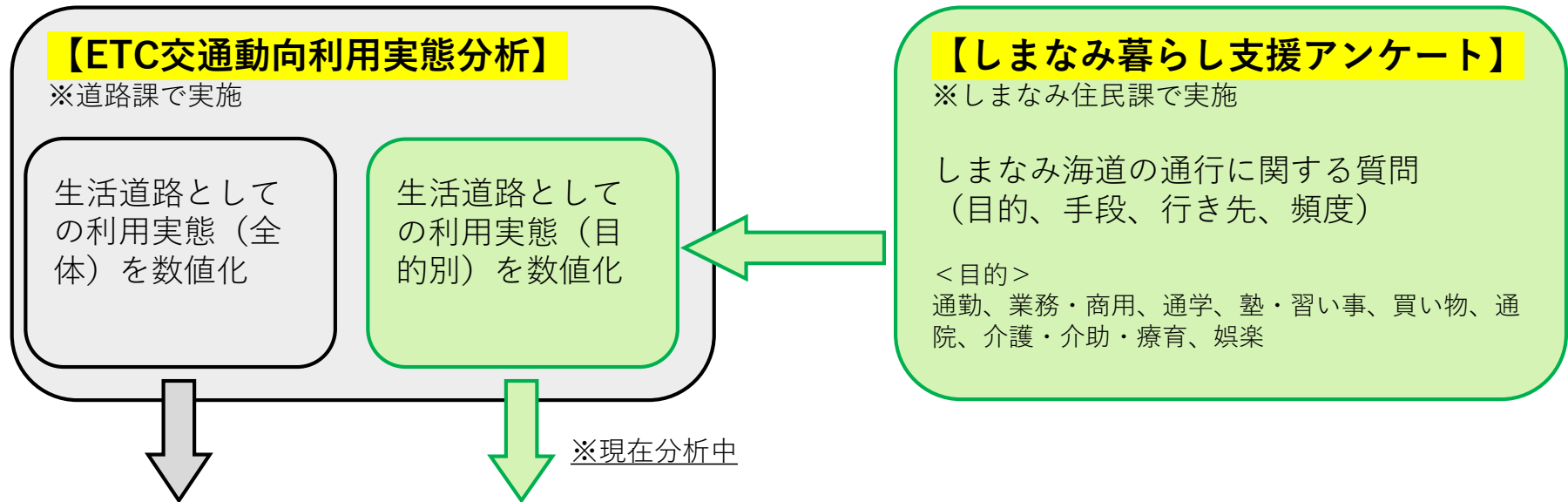
18歳以下の子どもがいる世帯に対象の交通費を1/2程度（上限1万円）を助成

#### ・燃料費高騰対応しまなみ暮らし支援事業 ※R4年度のみ

暮らしに関するアンケートを実施し、回答のあった世帯に燃料クーポン券（1万円）を配布

# 【活動報告】 しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

## ●実質無料化の実現に向けて



**【プロジェクトチーム】**

- ★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案  
負担軽減策ではないが振興策などのアイデアを情報提供
- ★ 生活道路としての利用実態分析結果やアンケート結果を踏まえた  
取りまとめ及び負担軽減策の提案（試算）
- ★ R5年度以降の実質無料化のあり方や方向性について提案

**★分科会**

- 生活・交通・教育
- 医療・福祉
- 財源・割引
- その他

# 【活動報告】しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

## ★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

### 【生活・交通・教育】

- ① 島しょ部で販売会の開催、日用品等の総合販売所を開設



### 【医療・福祉】

- ② 島しょ部医療福祉サービス促進事業  
③ 妊産婦・乳児健診等交通費助成  
④ 島しょ部オンライン診療受診環境整備事業  
⑤ 軽トラックを所有している障がい者にしまなみ海道の通行料を助成  
⑥ 介護老人保健施設等入所者家族への交通費助成



### 【財源・割引】

- ⑦ GCFによる助成制度・子育て支援のPR  
⑧ ふるさと納税に「しまなみ生活圈活性化支援」を組み入れ



### 【その他】

- ⑨ 島しょ部在住の免許返納者へしまなみ海道の通行料を助成



★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

【生活・交通・教育】

① 島しょ部で販売会の開催、日用品等の総合販売所を開設

- 現状：島内には限られた店舗しかない、交通費が負担になっている
- 内容：各島で定期販売会（年4回×3島）を開催し、出店業者の交通費を補助（伯方に総合販売所を開設するのも一案）
- メリット：島内で完結できることが増える、通行料の軽減、集客の相乗効果、賑わいの創出
- 事業費試算：1,046千円（販売会の場合）



## ★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

### 【医療・福祉】



#### ② 島しょ部医療福祉サービス促進事業

- 現状：医療福祉サービスを提供する事業者が少ない、橋代の一部の利用者が負担するケース
- 内容：医療福祉サービスを提供する事業者へ交通費の全額助成
- メリット：適切なサービスの提供、料金の差を軽減、通院費の削減、事業規模拡大  
個々に助成するよりも事業費が安価である
- 事業費試算：2,988千円



#### ③ 妊産婦・乳児健診等交通費助成

- 現状：現在は実績に応じた助成を行っており、利用者や事務処理の手続きが煩雑
- 内容：妊娠届を提出した方に対し行くことが想定される回数分の交通費を一括して助成
- メリット：煩雑な申請がなくなる、事務効率の向上、子育て世代の増加に期待
- 事業費試算：1,706千円

#### ④ 島しょ部オンライン診療受診環境整備事業

- 現状：受診の際の交通費が負担、オンライン受診が増加する可能性  
不慣れな方やオンライン受診を受ける環境が整っていない
- 内容：各支所及び公民館にオンライン診療受診可能な環境を整備
- メリット：受診率の向上、交通費の削減、島しょ部の薬局で必要な薬を受け取ることができる
- 事業費試算：特別な経費は不要 ※別途通信機器の購入が必要な場合は193千円/台



★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

【医療・福祉】

⑤ 軽トラックを所有している障がい者にしまなみ海道の通行料を助成

- 現 状 : 高速道路障がい者割引では軽トラックは対象外、市独自の割引制度の要望がある  
国の制度改正には至っていない
- 内 容 : 軽トラックを所有する障がい者のしまなみ海道通行料を半額助成  
(対象は62世帯、週1回・1往復×年52週として試算)
- メリット : 通行料の負担軽減
- 事業費試算 : 6,446千円



⑥ 介護老人保健施設等入所者家族への交通費助成

- 現 状 : 島しょ部施設が少なく、やむを得ず陸地部の老健施設に入所するケースが多い  
家族にとってかなりの負担
- 内 容 : 施設入所者の家族に対し、交通費の一部を助成  
(対象は約120世帯)
- メリット : 家族の負担軽減
- 事業費試算 : 5,840千円





## ★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

### 【財源・割引】

#### ⑦ GCF（ガバメントクラウドファウンディング）による助成・子育て支援PR

- 現 状 : ふるさと納税をしまなみの子どもを育む交通費支援事業の財源としている  
今治市の取り組みについて広く周知する必要がある
- 内 容 : GCF（ガバメントクラウドファウンディング）への打ち出し、返礼品を島嶼部の  
特産品で統一 ※単年度のみ
- メリット : 子育てしやすいまちづくりのPR、打ち出し後のふるさと納税額の増加に期待  
島しょ部の魅力も同時に発信
- 事業費試算 : 目標額25,000千円（助成15,000千円、返礼品7,500千円、手数料2,500千円）



#### ⑧ ふるさと納税に「しまなみ生活圏活性化支援」を組み入れ

- 現 状 : 通行料の負担による往来の自制、地域活性化の足かせ、財源の確保
- 内 容 : ふるさと納税（1.今治を元気にする）に「しまなみ生活圏活性化支援」の組み入れ  
通行料の助成（目的を問わず上限2,800円/年・世帯）、マイナンバーカードとの連携
- メリット : 助成額は少ないが実質無料化への取り組みをPRできる  
島しょ部の活性化に繋がる、税金を投入しない
- 事業費試算 : 助成額20,720千円（ふるさと納税歳入：34,520千円）



★ 4つの分科会による負担軽減策（ピンポイント）の提案

【その他】

⑨ 島しょ部在住の免許返納者へしまなみ海道の通行料を助成

- 現 状 : 高齢化、公共交通が不便、免許返納が進まない
- 内 容 : 65歳以上の免許自主返納者に、同乗によってしまなみ海道を通行した場合の交通費を助成（返納後1年限り、実績の1/2、上限1万円）
- メリット : 免許返納のインセンティブが働く、高齢者の負担軽減策、事故減少に寄与
- 事業費試算 : 1,100千円（免許返納者数：直近3年平均110人×1万円）



## 【活動報告】しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

### 【情報提供】PT会議において提案のあった負担軽減策ではないが振興策などのアイデア

名称	背景・現状	内容	効果・メリット
ドローンを活用した農業（農園）	農業従事者の減少に伴い耕作放棄地が多い、近年の技術開発	JAや地元農園、県内の農学部等と連携し、ドローンを活用した農業を実施する	耕作放棄地の活用、地域との連携、生きがい作り、活性化
しまなみ花畑計画	若者は田舎（遠く）に行く理由に「花畑」を見に行くことがある	大三島の海岸線、山の斜面の一部にひまわりorコスモス畑を作り観光スポットにする	花を見たら元気になる→観光客の誘致や島しょ部滞在時間の増加→新しい賑わい→活性化
島しょ部安心まちづくり協定	近年の自然災害の増加、南海トラフ、不安感、しまなみ海道通行止めのリスク	しまなみ海道通行止めを想定し、航路関係会社と職員の派遣や物資輸送に関する協定を締結	災害時の対応力向上、安心感の確保
乗合タクシーの走行範囲拡大	吉海地区、大三島・上浦地区で乗合タクシー開始、島しょ部間や陸地部には行けない	各島での運行や走行範囲を拡大し、島しょ部間の移動や陸地部への移動も可能にする	ドアtoドア、負担軽減、通勤通学時間帯を回避、移動手段確保、住みよい町づくり
奨学金返還支援制度による定住化・しまなみ海道利用の促進	全国の自治体の中には、Uターン、Iターン者の奨学金の返還に対し、自治体が支援し定住化を促進している	今治市への定住化を促進するため奨学金の返還に対して助成を行う	都市部と比較し賃金の安価な今治市への定住化を促進することができる、しまなみ海道の利用促進にも繋がる
島しょ部在住者の免許返納者にバス・タクシー利用助成	高齢者にとっては移動手段として車の必要性が高い（免許返納が進まない）、利用者が少ないので公共交通が充実しない、島しょ部の路線バス・高速バスには割引がない（陸地部はあり）	65歳以上の免許返納者を対象に、陸地部と同等にバス割引の実施や、タクシーで使えるクーポン券（期限あり）を配布	免許返納のインセンティブが働く、事故減少に繋がる、公共交通機関の利用促進や充実化に繋がる

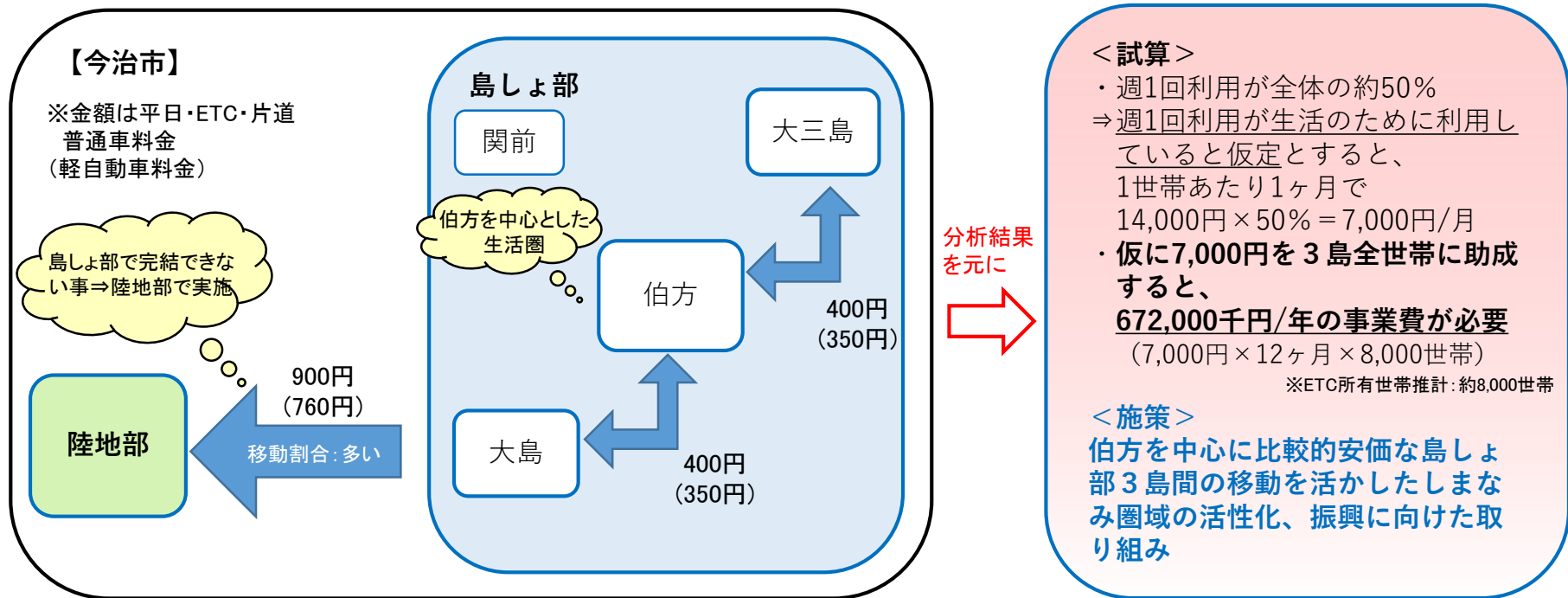
# 【活動報告】しまなみ海道通行料実質無料化に向けた調査検討プロジェクトチーム

★「生活道路としての利用実態分析結果」や「しまなみ暮らし支援アンケート結果」を踏まえた取りまとめ及び負担軽減策の提案（試算）

※しまなみ暮らし支援アンケートは未反映

## ● ETCカード番号を活用した交通動向・利用実態分析結果（主な点）

- ・島しょ部住民はしまなみ海道を「生活道路として利用」していると考えられる
- ・ほとんどの世帯が週1～2回程度の利用である（平均利用料金：1万4千円程度/月・世帯）
- ・島しょ部内で完結できない事は今治市陸地部で実施していると推測される
- ・島しょ部3島間の移動は全体の約2～3割である
- ・島しょ部圏域においては伯方を中心とした生活圏が形成されていると推測される



★ R 5 年度以降の実質無料化のあり方や方向性について（P Tからの提案）

**< 実質無料化に向けて >**  
**通行料の負担軽減を図りつつ『住みたい行きたいと思える魅力あるまちづくり・暮らしの実現』を目指す**



**通行料の助成による負担軽減だけではなく、総合的な取り組み体制**

